

## 脅迫者 (1951)

THE ENFORCER

メディア 映画

ジャンル ミステリー サスペンス

製作国 アメリカ

色彩 B&amp;W

時間 87分

初公開日 1954/08/31

公開情報 WB

## 【解説】

ひきしまった演出が散見できる犯罪スリラーの佳作。ボガート扮する地方検事補ファーガスンは、裁判を明日に控えて、殺人請負業の元締めデューク（スローン）を有罪にするための証拠固めに、警察に詰めていた。物証があがらず、自分の罪の軽減を条件に自供したリコの証言だけが頼みだったが、報復を恐れて逃亡を図ろうとしたリコが墜落死したため、すべてが水泡に帰すかと思われた。が、検事補と担当警部は諦めず、もう一度自供テープに耳を傾ける。そこから事件の回想に入っていくのだが、ちょっと緊張の糸が断たれる感じでいただけない。回想の繋ぎ方も乱雑で、大した謎があるわけでもない事件が、単に構成の問題で込み入ってしまった感が強い。ただ、殺されたはずの目撃者の一人が実は生きている、と検事補が気づいてからの展開がなかなか見せる。その娘の“大きく見開いた青い眼”というのがキーワードとなるのだが、モノクロ作品のため、俄然トリックが効いてくるのである。

## 【クレジット】

監督	ブレティン・ウィングダスト	Bretaigne Windust
製作	ミルトン・スパーリング	Milton Sperling
脚本	マーティン・ラッキン	Martin Rackin
撮影	ロバート・バークス	Robert Burks
音楽	デヴィッド・バトルフ	David Buttolph
出演	ハンフリー・ボガート	Humphrey Bogart
	ゼロ・モステル	Zero Mostel
	テッド・デ・コルシア	Ted De Corsia
	エヴェレット・スローン	Everett Sloane
	ロイ・ロバーツ	Roy Roberts
	スーザン・キャボット	Susan Cabot